曰、放蕩小子、汙二人之床一、竟無二復一言一焉、

〔看聞日記〕應永廿三年七月廿六日、抑傳說記錄雖二比興一、風聞巷說記之、○中略又去五月之頃、河原院聖天へ女房一人參詣シケリ、七日ニ滿シケル日、御前ニ所作シテ居タリケルガ、ツキ立テ出ケリ、良久見ヘザリケレバ、寺僧アヤシミテ見ケルニ、藪ニ向テ小便ヲシケルガ、ヨリスヂル風情ヲシケレバ、アヤシクテ暫見ケルニ、此女タヾナラズ、惱亂シケレバ、人々ニツゲテ寄テ見タリケルニ、大ナル蛇、小便ノ穴ヘ入テケリ、法師ドモ寄合テ女ヲアヲノケテ、蛇ノ尾ヲ取テ引ケレドモ出ズ、四五人力ヲ出シテ引ケル時、蛇ノスキサシノ邊ヨリ切テ、頭ノ方ハ腹ヘ入ヌ、女房ハ死セルガ如クニ成タリケリ、イヅクノ人ゾト問ケレバ、息ノ下ニシカ〳〵ノ所ト云ケレバ、人ヲツカハシテ告ケリ、興中間ナドアマタ來テ、女房ヲ取テ歸ケリ、ヤガテ死タリトキコユ、容顏モヨニ尋常ナル女ニテゾ有ケル、何事ヲ祈請申ケルヤラン、聖天ノ罰カトゾ沙汰シケル、カヽル不思儀ドモ滿レ耳、

〔松屋筆記七十一〕小兒の尿（エバリ）するを𤢖うをすると云詞

小兒に小便せさするに、シイヲセヨといひ、シユウトヘヨウグルなど云俗語あり、俊賴散木集十の卷、隱題歌に、拾遺抄、

𤢖とねには𤢖ふゐせうとぞおもひつる𤢖たりがほにもつもる花かな、此歌は下根を通はして𤢖とねといひ、それに尿音（シトヂ）をよせ、𤢖ふゐせうに尿（シト）せんといふよしをよせ、𤢖たり顏に尿（シト）を𤢖たりがほとよせたるなり、尿を𤢖ふゐといへるは、その尿するおとのシユウといへばなり、然てシイヲスルなどいふもこれ也、シトといふも尿（イバリ）を𤢖と丶垂出（タレイダ）す音よりいへる名也、古くはシトといひ、さて轉りては、シフキともきゝ、シイともきくは、その垂出す音によれるなり、花木の下根に立よりて、尿をせんとおもひつるに、はやくも𤢖たり顏に花がちりつもりたるよしの歌なり、

〔塵塚談下〕小便は世人は勿論、醫者も湯茶の飲水下るものと思ふがおほし、左にはあらず、尤湯茶